

かなえるレター

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都



右京区 80歳代 Yさま
「フラワーアート」

ご利用者

教えてもらいながら出来たことがとても良かったです。完成した作品を見ると気持ちが前向きになります。(Yさま)

担当スタッフ

デザインから飾り付けまでご自身で考えながら完成された大作です!!
現在は玄関先に飾られており足元を華やかに彩られています。(作業療法士 鎌田)

かなえるリハビリ訪問看護ステーション(大阪)

ご利用者数 H28/6/20 時点
介護保険 951名 その他 7名
医療保険 366名 計1324名 社員数108名

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都(京都)

ご利用者数 H28/6/20 時点
介護保険 198名 その他 4名
医療保険 21名 計223名 社員数20名

ご利用者からの投稿募集

かなえるレターではご利用者の投稿を募集しています。俳句、川柳、随筆、絵手紙など作品の種類は問いません。あなたの作品をこの紙面で発表してみませんか? 詳細は郵送、FAX、メール、または訪問スタッフまで。

かなえるリハビリ 訪問看護ステーション都

〒604-8371
京都市中京区御池通
神泉苑西入神泉苑町1-11
コマ・ビル3階
tel 075-803-0536
fax 075-803-0537
e-mail : info@kanaerulink.co.jp

<職種>

看護師 5名
理学療法士 9名
作業療法士 2名
言語聴覚士 2名
事務員 2名

Yさま：80歳代後半の女性で、1年前にくも膜下出血を発症されました。その後遺症による身体の動かしにくさや集中力が続きにくいなどの高次脳機能障害があり、退院後は日常生活に対する不安感が大きく、家事や外出など様々なことに消極的になられていました。

～「また出来たらいいのに・・・」Yさまの隠れた想い～

ご自宅には昔Yさまが作成した小物やワイヤーを使用したフラワーアートが多数飾られていました。ご本人は「今はようしないけれども…」と仰っていましたが、話されている時の楽しそうな表情が印象的でした。「また出来たらいいのに…」と呟きを聞いた時、リハビリのプログラムが決定しました。

在宅生活の安定や手の機能を向上させるためだけでなく、向上したその先のことを踏まえ隠れている想いも『かなえる』ためにリハビリにも熱が入ってきました。

試行錯誤をしながら一つずつ段階的に目標を設定し、今できていることとこれから出来そうなことを一緒に確認しながらコツコツと課題を達成していきました。

～作品作りが日常生活の活気に～

一つの作品が完成する度にご本人の素敵な笑顔がみられ、また回数を重ねる毎にご自身で考え実行される頻度が増えていきました。日常生活に対する不安が減り、ご家族や友人と外出する機会が増えたのは、ご本人が頑張っリハビリを続けてこられたからです。

現在も毎週のリハビリで色々な作品作りに意欲を燃やし取り組まれています。

これからもご利用者の想いを『かなえる』サポートができるように日々精進して参ります。

(作業療法士 鎌田)



かなえる★ジョナくん劇場

作者紹介ジョナさま：先天性・進行性の障がいを抱えながら漫画家を目指し活動されている22歳の青年です。当事業所からは看護師・作業療法士・理学療法士が訪問させて頂いています。物語は『かなえる』に入社した叶得(かなえ)りは男(お)くん、今回は初めて訪問同行…さてさてどうなるのでしょうか！



①



②



③



④



かなえる人生訓

「何でも、どんなに小さいことでも、常に感謝して生きてる。

この年になって怒るなんてしない。欲もそんなにない。

私は病氣して、嫌なこともいっぱいあったけど、

病氣をしたからこそ本当にいい人達に出会えた。恵まれた。

みんな私のことを心配して良くしてくれる。ありがたい。」（上京区 M さま）

約1年間リハビリを担当させて頂き、先月永眠された M さまがいつも仰っていた言葉

です。環境や相手のせいにはせず、常に感謝して生きる大切さを教えて頂きました。

これからもずっと、尊敬しています。(理学療法士 小山)



新しいスタッフのご紹介

名前：柴田継也(しばたつぐなり)

職種：理学療法士 趣味：ジョギング

京都市のほぼ全域を駆け巡ります。ご利用者のご家族、それを取りまく皆様の想いを重ね合わせ、1つの安楽な在宅生活が生まれたらいいなと思っています。よろしくお願いします。



看護

まめ知識

フットケアの重要性(前編)

京都事業所 看護師
(フットケアスペシャリスト)
高木 佳名子



医療におけるフットケア：足を様々な病氣から予防し、健康な状態に保ち、長く歩ける足を維持することを目的としています。

～小さいけれど大事な役割『爪』！フットケアは転倒の予防に～

足の先の小さな爪ですが歩行にはとても大きな役割を果たしていて、爪がきちんとした形でないと足に正しい力が入らずバランスをとることができません。また爪水虫で爪が分厚くなると重心が後ろに下がり転倒しやすいとも言われています。爪を正しい状態に保つことは、転倒を予防することにつながります！！

日常における足のケア方法

◆自分の足を毎日見て触れ観察しましょう

足の感覚は加齢とともに鈍くなるため意識して足に関心を持ちましょう。

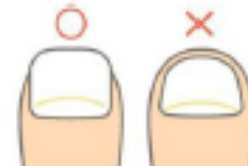
例：触ると痛い、皮膚が固くなっている、爪の状態はどうか、爪を押すと痛い、むくみがある



◆「丸く」ではなく「四角」に爪を切りましょう

絶対にしてはいけないのが爪を短く切りすぎる「深爪」と爪の角を斜めに切ることです。

短く切りすぎると指の先端が盛り上がり爪がまっすぐ伸びなくなります。



その結果、爪が肥厚し内側に巻きやすくなります。

◆足を洗い、水分をしっかり拭き取り、保湿しましょう

- ・しっかり泡立てた石鹸で指の間も洗いましょう。
- ・洗った後はしっかり水分を拭き取ることも大切です。
- ・乾燥すると皮膚のバリア機能が低下します。足裏から指先、爪までしっかりクリームをつけ保湿しましょう。



かなえる TOPIC

今年も開催！かなえるシーズンイン研修 2016

2016年5月15日(日)に毎年春に社内教育の一環として実施している「かなえるシーズンイン研修」が開催されました。

この研修は、全社員が会社全体の動きを理解し経営理念・思考規範・行動規範を再確認し、ご利用者へ質の良いサービスを提供するために必要な保険制度の理解やリスク管理について学び、足並みを揃える場として実施しています。今回で4回目のかなえるシーズンイン研修となりますが、101名の社員が参加し、とても有意義な研修となりました。

会社組織の役割と動向を確認し、ご利用者へサービス提供する際に必要な医療・介護保険制度の理解をグループワーク形式で行い、各社員が真剣に学ぶ姿がみられました。最後に来賓として株式会社東京リハビリテーションサービスから、竹中様と小峰様にお越しいただき、「ハートブリッチプロジェクト」と題して障がいをもつお子様の自立や発達の支援に関するご講義もしていただきました。社員一同、真剣に研修に取り組み、ご利用者や地域社会のために何ができるのかを考える機会としてよい研修会となりました。

当社では毎年かなえるシーズンイン研修をはじめ、多くの研修会を企画・開催しております。社員がご利用者により良いサービスを提供するための自己研鑽、地域社会へ貢献するために必要なことであると考えております。

これからも社員一同、ご利用者と地域のために切磋琢磨していきます。今後ともかなえるリハビリ訪問看護ステーションをよろしくお願いいたします。

教育研修部 門田 淳志



小峰様より障がいのあるお子様も脱ぎ着しやすい洋服のご紹介



編集後記

梅雨でじめじめした空気ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。私は庭で野菜を育てているのですが、一雨ごとに成長していく様子を見るのが毎日の楽しみとなっています。梅雨が明ければ暑い夏！これから体力的にも厳しい季節になりますが、お家の中でもなにか楽しみがあると良いですね。今回記事にご協力いただいたYさまのように、私たちも訪問看護・リハビリの立場から、皆さまが日常を楽しめるようなお手伝いできればと日々思っております。暑い季節に向かいます。健康にはくれぐれもご留意くださいね。

編集者 鴨谷 香耶子

